

お客様各位

株式会社 山喜農園  
新潟県魚沼市原1280-1  
TEL. 025-794-2455  
FAX. 794-4168  
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp  
HP Address. http://www.yamaki-noen.co.jp

## 球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

5月31日(日)～6月9日(火) ランダに出張してまいります。

5月29日(金)には、JFTA 主要会員とフランス植物防疫所及び代表的な生産農家との会食が計画されているとの事。

私個人的には、残念ながらタイミングが合わず参加できませんが、「フランス産百合球根」の潜在需要・「品質バブル/品種構成」など、内容のある検討会になることを期待しております。

隔離検疫免除初年度となる14年産については、4月末日現在、日本全体で約3,500,000球もの輸入実績を上げている様です。(植防速報値)

最終入荷数は未定ですが、我が国においては酷暑期に球根定植される作型を中心に、絶対的に不足している「新潟県産遅堀球」の穴を埋めて、夏季作型の切花品質向上の為に良い仕事をしてくれるものと期待しております。

当社においては、15年産フランス産球根を約5,000,000球弱の発注・確保作業を進めさせていただきました。お客様からの期待も高い様で、約4,600,000球強のご注文をお受けいたしました。誠にありがとうございます。

酷暑期の作型においては、草丈確保・奇形花発症率の抑制など、少なくない効果が期待される所です。

皆様におきましては、昨年4月上旬～8月上旬までの4.5ヶ月間、10月上旬～12月上旬の2ヶ月間、通算6.5ヶ月間にも及ぶ「ほぼ原価割れの相場感」を経験されていた中、来年切花用球根(15年産NL/FR産)の確保については、「時間をかけて検討していきたいところ」ではなかったかと存じます。

『本年の夏秋期切花価格は重要です…。(14年産球根使用)』

球根生産産業の仕組みを良くご理解いただき、早めに導入検討していただけました事は、誠に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

同様に、必ずしも現状の切花価格を勘案すれば必ずしも適正価格とは言えないA.H/L.A球根(15年産NL産)につきましても、国際流通価格を追随しなければ、「原材料」である球根確保が難しくなることをご理解いただき、15年産NL産O.H/O.T系(比較的検討期間を長くとれる…)は、後回しにさせていただき、このA.H/L.A球根において、しっかりとした確保作業に勤めていただいた事も本当にありがたく、感謝の気持ちでいっぱいです。

確保作業を進めた球根につきましては、生産国ごとに生産会社やロットの履歴をしっかり把握し、できるだけ日本各地の使用作型毎に納品が実行できるよう努めてまいります。よろしく願い致します。

### 14年産ランダ産フェーリップ球根

品質まずまず。切花品質まずまず。相場まずまず。久しぶりに良い年となりました。

## 15年産オランダ産チューリップ球根

切花用営利栽培農家向け球根。輸入球数横ばいから微増。(大幅には増加してほしくない…。)

オランダはやや涼しくて、作は進んでいない。

この「涼しい」がポイントで、本年のヨーロッパ・チューリップ切花市場(3月4月期)は、近年では最も相場が良かった年となった様子。

アフリカ/その他の国から東ヨーロッパ/ロシアに向けてのバラを中心とした切花輸出量が激減し、その穴をオランダ産チューリップ切花が埋めた形。(ロシア/ヨーロッパ政治関係の影響との事。チューリップ切花も価格低迷を危惧していたのが、逆の結果となった。)

従って、球根価格は取引後半から高騰している。

皆様に早めに確保作業を進めていただいたのは、大正解でした。球根価格が高騰する前に確保作業を進めさせていただき大変ありがとうございます。

涼しくて遅れる?ことをやや心配していますが、その話をするのは早過ぎですので、継続情報をお繋ぎしてまいります。

## 14年産フランス産百合球根/産オランダ産

フランス産百合球根につきましては、原則4月以降の球根納品作型でしか球根流通を実行していません。

休眠打破が遅い事、加えて地温が低い作型では上根発根抑制がかかると考えられているからです。

従って、14年産の調子はまだ見えてきません。

オランダ産につきましては、昨年球根生産時、夏秋期での気温/地温のギャップが少なかったことが原因と考えられますが、休眠打破がやや遅れ気味であったようです。

十分な準備が出来ていないのに、掘り取り後、いきなり低温管理している冷蔵庫に球根を入荷すれば、調子は狂います。(14年産N.Z産一部C.H産球根がまさしくこのパターン!)

この為、2月20日以前に定植された球根につきましては、一部で輸付き不足・不揃い等が確認されていますし、2N球についてはこの「準備不足でいきなり低温冷蔵庫搬入」の影響がその後の作型にも残っている様です。

※ミスをした輸出業社とは、再確認・打ち合わせを行っていきます。

この問題は世界の異常気象・温暖化傾向を考えれば極めて重要なポイントで、N.Z産でもC.H産でも「営業都合」の早掘りをさせないことなどに繋がってくる話なのです。

それ以降の定植作型につきましては、今までの所、順調に推移している様です。(一部の不揃い、一部青カビ・リパン腐敗が例年より早めに確認されている品種がありますが…。)

抑制作型は心配です。(芽が動きやすい=凍害その他の心配…。)

## 15年産フランス産百合球根/産オランダ産

生育状況につきましては、出張後ご報告いたします。

ここまでの取引状況についてご報告いたします。

### 15年産フランス産

早めの発注確保・早めの受注作業が実行され、順調です。

### 15年産オランダ産 A.H/L.A

2014年2月上/中旬に起きた関東甲信地域の大雪被害を受けた埼玉県深谷地区の影響で大きく取扱い輸入実績を落としておりました。行政そして百合切花産業にかかわる様々な方々からのご支援を頂き原状回復に向けたプロセスを進めている最中です。

15年産南半球産/15年産オランダ産使用切花作型からはほぼ基の生産体系に回復できるのではないかと考えております。深谷地区切花生産者の皆様も少なくない新規借入れを起し、「これで生きる!」為に、「新販売団体」を設立して再建計画を進めています。

同じタイミングで、主要品種の更新も起きてきました。

\*主要品種とは…?現在または近い将来、日本国内流通球数/切花本数が2,000,000本+αくらいの規模と

なる品種。

1,000,000本内外では…主要とはいえない。(但し、ピンク/白/赤では、今後2,000,000本に到達する品種が出てこない可能性が高い。)

エスプリ・チェザール・フレミントン (以上オレンジ)、エルゴボ・シホネ (以上黄色)、アルバタックス・レディラック (以上ピンク)、12ヶ月間の市場安定供給を目指し、従来の主要品種であるインディアン・ダイヤモンド・Rトリコティ・ハイパーク・セブコデジール・セラダ・パビア・カプレット・パーティダ・ダイヤモンド・ケリアなどに加え、作期ごとの更なる供給精度向上を目指します。

赤系でも、グイックス・コルオネなど期待値の高い品種の導入も進んでくる様です。

菊やカーネーションに負けないくらいの供給精度で、A.H/L.Aという品目が盛り上がっていただければいいなあ…と期待しています。

### 15年産オランダ産 O.H/O.T

A.H/L.A同様、新しい動きかなあ？と感じさせる動きが生まれています。

1) 新品種を追いかけていた産地が、その成功体験からなのか、さらなる新品種導入を…という動きを見せていない。最近のヒット品種に需要をとどめているように見える。(Plamvの影響?)

2) 作型によっては、各々の生産地毎にあるO.H系では難しい時期・作型を、最新のO.T系を使って安定生産・安定供給しようという動きを感じる。(ザンバジ・テーブルダンスよりも新しい品種！これは新しい動きかな?)

3) シベリアMAK/MAKTL/MAK2Lの不足感が浸透して、シベリアという品種については特に顕著に確認できることだが、皆様からいただくご注文初期の段階から、オランダ産のシベリア、別コンディション球根のご注文を頂けるケースが増加している。(こちら側から『MAK/MAKTL/MAK2Lの代わりにこのコンディションを使ってください』、という説明をする必要がほとんど無くなってきた。)

これは本当にありがたいお話です。ようやく浸透してきてくれたか！と喜んでいます。

この考えが南半球産でも浸透してくれれば…切花産地も計画性が高まって(連続生産の向上につながる!)、最も重要な事は、球根産地側も自分の持ち場を理解してくれば、球根品質・切花品質の向上につながってくると考えられます。

4) 過去8~10年の間、これと言った夏向き高性種・水上げが良く輸送性に優れていると思われるO.H/O.T系の品種が、発表・流通していませんでした。そろそろ出そうです。やっとなです…。

今年は品ぞろえが増えています。

5) Plamv問題も絡んでいます。作型によっては、超抑制作型でプレミアムアロンドを減らし、アイスクリアーに変更したり…。

考え方の整理をちょっとだけ書き記します。コンディション別の球根の使い方とは?品種特性毎の作型導入とはほぼ同じ考え方なのです。

### フランス産

原則4月以降定植。

○定植時の地温が低い作型は不向き。(低温では上根発根抑制。上根の活力低下。)

○休眠がキレイに破れていないケースがある為。

○小さいサイズが販売しにくくても、絶対早掘りをさせてはいけない。(冷蔵事故の元!)

○4月~7月上旬定植作型で、オランダ産との比較で5日~7日間くらい到花日数が長くなると言われている。

○7月中旬~9月下旬定植作型で、オランダ産との比較で7日~14日間くらい到花日数が長くなると言われている。

\*到花日数が長い…花芽分花速度が遅い。奇形花の発症リスク軽減。

\*到花日数が長い…葉枚数がオランダ産より多い事が多く、輸付きもやや少なくなる傾向。

結果、草丈が伸びやすくなる。

○遅すぎる作型は不向き。

球根内の芽の大きさは新潟県産遅掘り並みに大きくなるケースが多く、長期冷蔵し過ぎれば冷蔵事故リスクが上昇すると言われている。

この点、意見が分かれるが、球根内部の芽形成が遅れる、又は元々芽の小さいタイプの品種をベースに考えると（例：鉄砲百合、スケゲザー etc.）、『超抑制が出来る』と言い、

最近の品種であるソボノ・シベリア・シラ等になると『酷暑期のみの使用時期とすべき』となる。（球根内の芽が大きいから…。長期冷蔵リスクが高いから…。）

当社の場合、最近の品種をベースに考え方を組み立てた。

従来からあるソボノ産南部産球根 **TL/2L** と同じ目的で使用可能。更なる精度向上になる、と考えている。

### **VOF/MAK/WF**

全て育種会社/原母球生産会社/球根生産会社である。（ハンザンテン社/マック社/ワールドフラワー社）  
一般の球根農家よりコストをかけて高い精度の球根生産をしている。あたり前ですよ！

### **HLC**

MAK の弟分。爆発的なパフォーマンスを発揮する年もあるが、安定感はや育種会社レベルには至らない。

### **POF/POF-K**

PO 社は、育種会社が生産する球根以外、農家名/生産会社名を持ち出してセルストックを行う事を嫌っている。（HLC の例でも分かる様に、安定感が育種会社生産球根のレベルには到達していない？）

シベリアのみでお願いしているのは、EVR レベルの品質を持ち、草丈の伸びやすいロットを選別して納品してもらおうとしている。

その他の品種では今年からフランス産ソボノで POF マークを入れてきた。他の品種/ロットでの差別化はまだ行っていない。

今後『フォルザ・フイェス球根生産グループ = 主にマレル社、ウレック社の旧委託栽培農家で構成している。』このグループからの購入割合が増加してくる予定です。（ほぼ全社が育種会社の母球生産経験あり）

### **JW セレクト・JW レート**

これもシベリアのみ適応。JW 社に系統選抜を依頼。（ソボノ・マロン・レクキヤルも挑戦しているが…。）

JW セレクトは、Turbo（2 年球早掘球）より花芽分花が早く到花日数が短い。

JW レートは、発芽がゆっくりで、花芽分花が遅いロットを選抜してもらった。抑制作型で丈が伸びやすい。

\*POF/POF-K/JW レートは、シベリア MAK（丈が伸びやすい）の代替ロットとして開発している。

この事から分かる様に、当社として特別な球根生産会社を限定的に取り扱っているわけではない。

あくまでも過去に実績を積み上げてきた PO 社と JW 社にロット選抜の判断をゆだねているところがポイント。

\*ちなみに POF・POF-K・JW レートは、2 月以降定植期作型から使える。（もったいないですけどね！夏秋でどうぞ！）

（セルストックではないのだという事。ご理解いただけますか？時間がかかっています。2~3 年で出来る訳ないでしょう！）

\*『シベリア VOF』は、草丈が伸びない系統が選抜されている様子。N.Z 産シベリアの母球ですからね。

### **NES/EVR**

ネットがとウイルスの罹病率の度合いを表している。低い。（1998 年から始めた。EVR を作るのでも 3 年以上かかっている。このコードがコンディション分けのスタートでした。）

## TYS/VOFTYS

系統の履歴を管理している。

DJ社創業者社長のクラス・デ・ヨンク氏が系統選抜を行った。クラス・ルガー社・ワールド・フラワー社がマイクロ増殖した。この系統を23年以上経った今も守り続けている2軒の球根農家が継続生産してくれている。

今はクラス・ルガー社・ワールド・フラワー社両社ともに、カブラカを作っていない。(このコードは、カブラカについてのみ！津南の切花農家と一緒に作りました。津南の了解をとって全国販売している。V.Z社N.Z産カブラカもこれと同じ系統です。)

## SES

リボンから生産した養成球から、開花球生産を行っている事を約束している。このコードは、A.H/L.Aで使用している。(A.H/L.Aは、木子からの生産が多い為。)

## GT/VISS

フロロとレイクヤーのみで使用。HLCと似ているが、生産者を限定しているコード。

輸出業社からのリクエストで、アジアその他の消費国で実績があり、評判が良い為、球根市場価格よりもやや高く仕入れている。その分高めに販売させていただきたいとの事で設定したコード。

## Turbo/2N

球根の「生産のされ方」を表現している。使用目的はどちらのコンディションも促成作型を中心に使用される。

スピードがあって輸付きは平均的に良くなる事が多い為、2N(2年連続栽培標準期掘り取り球根)については、品種特性を正確につかめば抑制栽培でも可能。(逆にリスクが増える場合があるので注意が必要。)

LMOV等のウイルスリスクは高め。Plamvウイルスリスクは理論的には低くなる。(それは今後の話です。)

フランス産アリス、ヒヤシス、南半球産百合球根につきましては、帰国後報告いたします。よろしくお願ひ致します。

**\*注意：NZ産・CH産・FR産(フランス産)においては、生産会者数が少なく、気象条件が違います。この為生産会社別販売はさらに進んできます。生産者毎に気象条件により球根の特性を管理していく事になります。**

**\*これは、国産球の時代からある普通の管理方法なのです。**

## 試験栽培について

### 14年産南半球産試験栽培

他輸入業者様からのご協力も経て、実施いたしました(岐阜県揖斐郡池田町にて実施)。

10月25日定植予定作型については、C.H産球根入荷遅れの為、11月25日定植作型に変更となってしまいました。

開花時期が、2~3月だった為、話題の中心が「ロット毎の品質」となってしまいました。

1月25日定植作型については、本来の試験目的である「球根生産地毎、ロット毎のパフォーマンスの差を見極める！」という初期の試験の目的が実施・実行され、その差がはっきりと確認できました。(大勢の皆様にご自身の目で確認いただけたと思います。)

この試験の重要度がはっきり確認できたと思います。

15年産南半球産についても、さらに試験精度を向上させて実施予定です。よろしくお願ひ致します。(HPにロット毎の開花日だけ載せてあります。ご確認ください。)

## 新潟魚沼地区における14年産北半球産試験栽培

A.H/L.Aは、チェザレ/ルミントンなど15年産で既に数十万球単位で流通できる次世代主力品種の開発に成功した様です。(16年産以降は、それぞれ大幅増加予定！)

酷暑期用O.H/O.T系品種で約2,000,000球以上流通できる品種は、ここ10年発見されていないように思います。

カブトランカ/ソルボンヌ/シベリア/シイラ/イローウィンといった主要品種レベルでなく、クリスタルブランカ/ビビアナ/マロ/エバースなどといったレベルの品種すら出来ていないのが実態実情ではなかったでしょうか…。

\*ヨーロッパでは、主力とは言えない。アイスランサー/レイクチャーでもまだ主要主力とは言えない。エマー・ホロス(未定(球根生産に難あり))。フェニス・レクサス・コンパニオン・Pブロード・サンブッカ・シグナム・アルレッタ等は、酷暑期用品種ではない。  
ザンバジは？テブルダグズは？アステリアン？R.V.ガレンは？メーパは？

**\* 丈が伸びやすく、枝が暴れやすいトランプ系との交配を行う為、最近のO.H系は、育種素材としての機能を果たさなければいけない関係で、「丈が短い」・「枝が伸びない」、コンパクトなO.H系ばかりでした。**

**\* 国際市場でヒットしているO.H系は、「育種会社/温室」での発表時点で、草丈130cm以上ない品種で成功した事例は極僅か…。**

**少なくともアジア/南アメリカ/地中海で成功している品種で、草丈の短い品種/水上げの悪い品種で成功した品種は一つも無いのです。**

**\* ようやく出てきそうです。ご自身の目でご確認ください。**

(6月10日以降～7月10日頃まで。当社試験温室、及び7月15日以降『新潟レクシオンリブプロジェクト』試験栽培地にて。)

**今年から来年にかけて確実に確認できるはずです。よろしくお願い致します。**

**\* 皆さん、もうお気づきですか？**

**酷暑期用の品種・球根の流通数が少ない…。だからフランス産が必要なのだという事。**

**だから、新潟県産遅掘り球が必要なのだという事を…。**

ご不明な点等、お問い合わせください。

以上 森山 隆



<http://www.lily-promotion.jp/>  
私共はLIPJの運営に賛同し  
協力・応援しています